

広島大学学術情報リポジトリ
Hiroshima University Institutional Repository

Title	児童の言語生態研究によるイメージ研究の歴史
Author(s)	小林, 照子
Citation	児童の言語生態研究 , 15 : 60 - 63
Issue Date	1997-01-31
DOI	
Self DOI	
URL	https://ir.lib.hiroshima-u.ac.jp/00045176
Right	
Relation	



児童の言語生態研究による

イメージ研究の歴史

資料作成

小林照子

出版

ホップ

1968

No.1

子どもの空想は果てしないのか (日名子)
”絵ばなし“に見る五、六才児の視点 (額賀)

一・二・三年における連想の発達 (松原)

「連想」把握への試みと問題提起 (飯住)

上級学年 (四・五・六年) における連想の分類とその方法 (飯住)

三教科書の差異ある一年生「にじ」が子どもたちにどう反応しているものか (椎名)
つなぎ話に見られた連想の特徴 (丹野)

子どもの連想と
仮想と

継続と裁断

場と言語 (岡田)

絵本と子どもの場のとり方 (鈴木)

場面移動と時間との伴い具合——四年生の場合—— (野村)

イメージの中の場の裁断と継続 (相川)

子どもは「場」を
どう捉えているか

世界設定

1969

No.3

空想と現実との境 (関山)

主として嘘の心情をめぐって (上原)

国語の力とは何か

1971
No.4

構成力の発達について（共同）
——場面連繋の可能性とその支障性——

子どもにとつて
書くということ

1972
No.5

「うそ」についての構造化（武村）

子どもにとつて
「うそ」とは何か

1973
No.6

物言う意識の発達を知るための調査方法の一つとその報告（上原・飯住）
比喩という言語操作性（武村）
即興という ” ” （市山）

ことばをあやつる
意識と力

1975
No.7

小学生の気の働きと思考ことの学年発達（小泉・佐藤・山口・地村）

子どもの感情の
発達とことば

1977
No.8

人間の構えのパターンとその発達と過程——ことわざの示唆性の獲得過程——（小泉・地村）
身ぶり・しぐさの意識に見る子どもの構えの発達（飯住）
笑いに見られる子どもの構えの発達（吉本・中川）

子どもの構えの
変革とことば

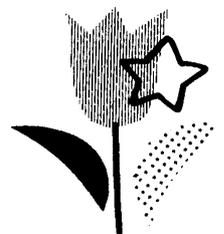
1978
No.9

用具言語としての
言語学習のあり方

音声言語教育の
方法を探る

1981
はなぢがナンでえ

（童心社より出版）



心意伝承としての国語（上原）
けんかに見る子どもの言語生態調査（小林・堀江）
小学生のけんかに見る”ポーズ意識“
についての一考察（飯住・石本）

子どものけんか

1983

イメージ
その全体像を考える

要素的イメージから
全体イメージへ
全体像
自己像
世界像
（藤岡・NHKブックス）

1983

感情教育論

”若“の思想—序にかえて
感情教育論
子どもの言語生態研究
（上原・学陽書房より出版）

仮説と実証



なまいきの生態を探る（共同）
英才児のなまいき
—論理性獲得に至る道筋を辿って—（葛西）

美の世界への誘い（安田他）
”こだわり“からの脱出
—自己解放を目指して—

子どもにとって泣くということ（武村）
子どもの感情生活における浄化作用について
—「夕日」作文にみる子どものイメージ運動—（小林）
子どものイメージ運動—「あとかくしの雪」を通して—（小林）
子どもの『気どり』に関する一考察（宮田）
—がまんの美意識—

子どものなまいき

1985

子ども文化

子どもの生活と先験的イメージ
子どものイメージの情動における仮説とその実証
（予見・祈禱・邂逅・没我・瞬起）
「穴」と留守番
闇とつば
走る
手形占いとおまじない
イメージの生理感
（『子ども文化の文化人類学的研究』
日本放送協会より出版）

子どもの泣き

1987

心意伝承の研究
芸能編

その形と心の各論
—心意伝承の様式的事例とその感情構造—
犠牲論—身替り—
落人論—神々の零落—
心中論—ぬば玉の黒馬に乗りて—
道行論—前わたりの芸能—
”殺し“と”血“の心意伝承—ちあえの衰亡—
（上原・桜楓社より出版）

”夢“作文と個性—その通性を求めて—（上原）
子どもの「夢」の世界構造（武村）

あの子にこの子
子どもの個性への接近

『三題嘶』の教材からとらえた子どものイメージの動き方(須崎)
 人間関係のとり結び方についての相互観察と自覚(福田)
 『子どもの意識のペースをさぐる』おうち——(宮田・工藤)

『"よみ"の世界を開く——日本人の根元的イメージ活動の
 触発として和歌〈俳句〉を読む』——(阿部)

『イメージの停滞からの脱出・イメージの再出発
 ——時・空間の拡大化とイメージネーションの転換』——(内田)

『イマジネーションの発動性と整序性を知るための
 研究授業——三つのことば合わせ』——(藤本)

毎日21世紀賞応募論文

『子どもと夢』(上原)

——夢は体感とともに在り——

1. 夢の先験性
2. 世界定めⅡトランスフォーメーション
3. 夢と風景
4. 夢の働きとしての回帰性

「英才児という個性」(葛西)

- ・潜在意識世界に生きる英才児
- ・ひとりぼっちと自己意識
- ・人間関係意識
- ・世界定め
- ・英才児のトランスフォーメーションの能力

世界観
 ——トランスフォーメーション——

1991
**国語の授業は
 こうする**

(学芸図書より出版)

1983

かいまみの世界

(上原・玉川大学での最終講義)

1995

**日本人の心をほどく
 かぶき十話**

日本人の心の仕組みと整えをほどく
 歌舞伎は日本人の心の偏向
 "やつし"という世界転換
 魂は空中を散歩する
 宇宙空間としての牧場
 きものあわせ——衣裳と人格——
 世界と人格との転換
 笛の音に誘われて——靈魂の出現——
 トランスフォーメーション
 日本人の意識世界の構築法
 犠牲者の系譜——冥界への案内人——
 三輪の神伝承——神話の元型——
 ワカ(和歌・若)をアゲル
 天と地の呼応
 宇宙空間の一大演出
 (上原・オリジン社より出版)

